

平成26年度 第3回学校協議会

平成26年度府立野崎高等学校第3回学校協議会議事録

日時平成27年3月25日

15:00～17:00

於 本校会議室

司会 水元教頭

記録 番本達也

●参加者

<協議会委員> (○印が会長)

○瀬島委員、鳶岡委員、笹尾委員(欠席)、尾崎委員、梅本委員(欠席)、西本委員

<事務局>

村田校長、南畑教頭、水元教頭、樋口事務長、榊首席、佐野首席(欠席)、和田教諭、宮崎教諭、前田教諭、諫山教諭、番本教諭、本田教諭(欠席)、水口教諭(欠席)

次第

- 1、学校長挨拶
 - 2、事務局より
 - 3、協議、意見交換
 - 4、会長より
 - 5、事務局より
-

1.学校長挨拶

先週は後期選抜、月曜に合格者発表があり午後には合格者説明会を行った。年度内に新入生の登校日もあり、現在も中学校へ訪問しお話を聞かせていただいている。また、クラス分けを並行して行っている。

あっという間の1年間で達成できていないこともある中で、先生や生徒の頑張りでここまで来ることができた。3年生は3月4日に卒業式を迎えた。また、3月に1年生がバイク事故で亡くなった。生徒にとってバイクは身近な存在だが、それについての問題意識が低かったと思う。その危険性を学校全体で考えた。安全安心な学校を作っていきたい。

2.事務局より

ア. 資料について

- ・平成26年度 学校経営計画及び学校評価
- ・平成27年度 学校経営計画及び学校評価

- ・平成 26 年度 学校教育自己診断 まとめ
- ・平成 26 年度 第 2 回授業アンケート 分析
- ・学校協議会資料 広報 PT 活動（報告）
- ・平成 26 年度 進路指導部 第 3 回学校協議会資料
- ・平成 26 年度 生徒指導部 学校協議会資料

イ. 本年度学校評価について

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価を参照

資料は現在教育委員会と調整中で完成版ではない。来年度の 1 回目の学校協議会の際に完成版をお示しする。評価指標をもとに目標が非常に達成できていれば◎、達成できていれば○、達成とはいえないければ△となっている。

第 1 回目の際に報告した懲戒の人数 50 名以下という内容については、1 学期中に 50 名、2 学期末で 99 名と目標を達成できなかった。このことについては、学校に来る生徒の割合が増えたことなどもあり、一概に悪かったとは言い切れない。本校が 1 校目の教員が全体の 70% であり、初任者に対しての研修等に関しては目標以上のことができたのではないかと。

広報については、今まで以上の中学校へ伺い、多数の学校から生徒が来てくれた。ブログに関しても、中学生が見てもわかりやすいものにするとも意識していた。

ウ. 第 2 回授業改善の結果について

第 2 回授業アンケート分析 を参照

昨年度から継続的に年 2 回実施。表記されている数字はアンケートでそう思う、ややそう思うと答えた肯定的評価の数字。

●分析

全体の平均及び各項目の多くが今回高い評価となっている。徐々に数字が上がっており、生徒たちの高い評価が表れている。数値が伸びた原因は、アンケート結果から教員個人、教科ごとに改善シートを作成し、管理職に提出するなど授業改善に努めた成果である。来年度以降も授業改善を進めていかなければならない。

1 年生の数学はティームティーチングから習熟度別少人数展開へと授業形態を変えた。昨年度と比較すると、今回の数値が高いことがわかる。継続していくことによってさらにより良い結果が出ると思われる。次年度以降も、生徒の状況に応じたクラス分けを行いたい。

エ. 平成 26 年度学校教育自己診断の結果について

生徒、保護者、教職員に対して実施した。

●生徒の評価

行事全般について得に高い評価となっている。生徒の取り組んでいる様子と一致する。また、「自分は、マナーや校訓を守っている。」の項目も高評価である。頭髪や服装指導などの生徒指導面で指導を受ける生徒もいるが、多くの生徒は規範意識を持って行動していることがわかる。

一方、「校舎内は、清掃が行き届いている。」という項目の評価が低い。これは学校自体の老朽化など客観的な意味とも解釈できる。また、「学校の情報はホームページやブログでわかりやすく提供されている。」という項目が低い。これについては、以前からリニューアルしたいという声があった。4月からは新たに操作性がよく、スマホでも操作しやすいホームページを立ち上げる予定である。

学校として気になる項目は、「野崎高校では、一人ひとりが大切にされている。」の項目が低いことである。「担任は、親身になって相談や悩みに応じてくれる。」「相談できる教員は担任以外にもいる。」という2つの項目は低くないことから、教員の対応の問題ではなくがんばろうとしている生徒たちを伸ばすことのできるようなシステムや体制が不十分であることに問題があることが考えられる。この点について早急に検討したい。

●保護者の評価

評価が高い項目は「子どもが、野崎高校に入学して良かったと思う。」であった。これは学校としてうれしい評価である。また生徒指導、遅刻指導についての評価も高く、本校の指導方針を理解してくれていることがよくわかる。また「担任は、親身になって相談や悩みに応じてくれる。」という項目の評価も高く、これは担任が様々な所で関わっている結果である。

一方、「子どもは授業がわかりやすいと話している。」の評価が低い。生徒がわかりにくいと感じているというよりは生徒が学校についての話をしてくれないという意味での評価になっている可能性がある。また、「相談できる教員は担任以外にもいる。」の項目も低い。もっと行事に出席してもらうことによって様々な教員と話をする機会が生まれると考えられる。

●教職員の評価

教職員の評価において、過去3年間で最も低下している項目は「本校は、生徒の興味・関心・適正に応じて進路選択できるようカリキュラムを工夫している。」の14.4%減である。特に本校のコース制がニーズに合っているのかどうか検討する必要がある。生徒のアンケートの中にもあったように、生徒の力を伸ばしていくための改善を考えていきたい。

○広報より

広報においては毎回この場で報告し、アドバイスをいただいている。今年度は4名の教員で運営していた。それぞれのメンバーの感想を載せている。4名中2名が今年度から参加した教員で新たな発想で多くの取り組みが生まれた。チャレンジ野崎では、中学生向けのクリアファイルを生徒からデザインを募集し作成した。また、多くの生徒が運営に関わり、生徒主体の取り組みが増えた。中高連携では、中学校からこられた先生方に対して多くの教職員に関わり学校全体としての体制づくりができた。生徒の学校教育自己診断で「学校の情報はホームページやブログでわかりやすく提供されている。」という項目の評価が低かったのはショックであった。現在 Web ページをリニューアルしており、より一層インパクトのあるデザイン・内容となるように仕上げていく。

広報活動で必要な物品の購入に関しては、同窓会や校長マネジメントから支出している。卒業生が母校への手紙を書きそれを中学校へ持参したりした。

体験入学会へ申し込みをしていた中学校に資料の配布と情報の交換を行った。説明会活動は、中学校で行われる進路行事や各市の委員会主催の説明会に参加し、中学校への出前授業などにも出向かせていただいた。今年度の中学校訪問は、中高連絡会に来られなかった学校や、本校卒業生が書いた「母校の後輩へのエールの手紙」をまとめたものを持参するなどし、約40枚の中学校を訪問し、とても有意義なお話ができる。

今年度は、1年生へのアンケートを2回実施し、本校の印象や中学生時の塾経験などの結果を中学生向けの広報説明資料にとり入れ、先輩の状況を表すものとして活用した。

総合学習では1年間の終わりに「中学校の先生への手紙」を書いている。これを現在中学校へ訪問しながら渡している。その中で良い内容のものを広報の説明資料にとり入れている。次年度への引き継ぎでは、塾への訪問を考えている。各地域で塾名も分散しているが、10数名が通う所もあり生徒の様子や新たな選抜方法についての情報交換を行いたい。また、本校の紹介DVDを新たに作る予定で次年度配布したい。

○進路指導部

資料参照

3月20日現在の進路状況。就職が全体の半数を超えた。未定者は3%減である。一方、進学した割合が少ない。就職先については学校紹介で78名が内定を決めた。求人も増え、比較的希望通りの職種に就くことができた。

○生徒指導部

資料参照

1年間を振り返ると、特別指導の対象者は増加した。一部の生徒が繰り返し指導を受けた。その一方、喫煙等の指導にかかる生徒は減少した。全体的には前向きに学校生活をしよう

と感じている生徒が増えているように感じる。のではないか。生徒に自信を持って学校が楽しいと思ってもらうため、あいさつや授業規律、行事、地域清掃を充実させ、生徒の自己肯定感を養い特別指導の対象者を減らしていきたい。また、今年度はインターネット上でのトラブルが増えた。情報や社会の授業で情報モラルについての授業をしている中でも起きてしまったのでさらなる指導が必要と感じる。他校でも同様なトラブルが起きている。生徒の自発的な活動としては、体育大会、文化祭は成功したといえる。地域清掃ボランティアには毎回 100 名程度の生徒が参加した。他にも青少年赤十字へ大阪府の代表として福島へ参加した。次年度は生徒会やクラブの代表者がリーダー研修として行くという案がある。

●遅刻について

今年度を通して最終的には 2300 名減となった。学校に楽しんできている生徒が増えている印象を受ける。朝の遅刻ぎりぎりの時間では急いで向かう姿も見られる。遅刻指導や声かけ等学校全体の取り組みの成果ではないか。分析してみると、遅刻指導を受けるまでは遅刻が減少し、その後また増える印象なので、遅刻指導に対するハードルを上げたいと考えている。

●交通安全について

学校前の横断等の問題があり自転車についてのアンケートを取ると、約 80%の生徒が自転車を利用していると答えた。交通事故で危険な思いをしたことがあるという割合は約 50%がそう思うと答えていた。生徒の認識では 90%が交通ルールを守れていると思っている。一方本校生徒の自転車マナーが悪いと感じている生徒がおよそ 3 分の 1 いる。生徒自身の認識が甘いところが見られる。具体的には、自転車保険の加入率について 2 割が保険に加入しているが、わからないと答えた割合が多いということである。生徒指導部としては HR で交通ルール・マナーについてのクイズを実施し意識づけを図っている。今後も行いたい。

オ. 来年度学校経営計画について

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価 参照

これまでの本校のものはページが多かった。字が多いと読みにくいため両面 1 枚になるように整理したが内容は変更していない。中期的目標は今後 3 年間についてである。変更した点は進路について、「学校斡旋による進路決定率は常に 100%を目標とする。理由のない進路未決定率は常に 0%を目指す。」というものである。前年度までは 1%ずつ上げるというものであったが目標としては 100%とするのが良いと考えた。理由のない進路未定者は常に 0%にすることとした。進路の目標の変更と並行して評価指標の欄に同様の文言を入れた。

遅刻者についての目標は 3000 名減だったが、次年度もさらに 3000 名減というのは厳しいかもしれないが目標を変えずそのままとした。

教員の学校運営の参加では、本校が 1 校目の教員が多い中で、本校が初任校で 7 年目の教員が学年主任となった。そのような 1 校目の教員を育成しながらいろんなポストに参画してもらう予定。校内や外の研修にも参加させる。地域との関わりでは広報活動に全教員が参加。様々な中学校で授業形態についての研修にも参加した。研修に参加することで中学校との連携ができ、小学校の教員も中学の研修に参加しているので、児童生徒がどこで学習がつまずいているかを知る機会にもなる。本校のブログはとてもよくできているが、そのブログへ到達することが難しい。ホームページの表紙もわかりやすくしたい。

3.協議・意見交換

委員：自己診断の説明の中で教育は長期的なものではあるが「人権や命の大切さについての教育が行われている。」という項目と、「野崎高校では、一人ひとりが大切にされている。」という項目の評価にばらつきがあると感じた。

委員：アンケート結果の分析は肯定的評価の数値を取り上げているが、アンケートの回答に「わからない」という項目はないのか。

教頭：ない。4 項目で答えさせている。

委員：「野崎高校では、一人ひとりが大切にされている。」の項目が低いという件について、先生が一日に何人の生徒に声かけをしたのかという些細なことから考えてほしい。そうすることで自分を見てくれているという意識が生徒に芽生える。自ずと評価も向上するのではないかと。声かけをすることは名前を覚える機会にもなるし、すぐ改善できることではないか。先生方いかがだろうか。

教頭：教員もそういった意識を持っているが忙しさを理由に、声かけをわすれていることもある。委員のご意見は確かにその通りである。

委員：本日教職を履修している大学生とコミュニケーションをとったが、知っている学生に声かけすると表情が変わる。積極的な声かけが大切なのではないか。

教頭：野崎高校では、一人ひとりが大切にされていることが特徴であるのに生徒の評価が低いのは教諭の感覚ではどうか。目立つ生徒にばかりに目がいつているのではないかと。

教諭：この結果には驚いた。教職員のアンケートでは多くの教員が「取り組んでいる。」と答えている。教員と生徒の間に意識の差があるということについての分析は必要である。私自身も心配な生徒に声かけすることが多い。今まで以上に声かけを行っていきたい。

委員：アンケート結果を見ると「野崎高校では、一人ひとりが大切にされている。」の意味合いが生徒と教職員で違うのではないかと。教員、生徒、保護者の考える一人ひとりが大切にされているという意味を考えていくべきである。「学校が楽しい。」という項目では保護者の評価は高く、生徒は低い。「入学してよかった。」という項目も同様にばらつき

があるので見直しをしてほしい。保護者の評価が高いのは良いこと。生徒の意識がそれに近づいてほしい。

中期的目標にあるすべての生徒の安全安心できる学校づくり学校の指導が定着していると思っている。地域との連携も行っているので自己実現を支援する学校にしてほしい。また、目標のキャリア教育については3年後のこと見据えて、それまでにどんなことをする必要があるのかを考えていくことが今回の課題ではないか。そうすればさらに良くなっていくと思う。学校斡旋の就職を100%とするという目標は他校で実現できたところもある。その学校では、面接の指導等も教員が頑張り本人が希望しない職種も斡旋していた。就職率100%にするにはどういうことをしていく必要があるのかを検討してほしい

一方、教員のアンケートの中で100%の肯定的評価をされた項目がある点に教員の団結感を感じる。

保護者も遅刻指導や行事の満足度も高いので、自己実現するための学力、進路指導を工夫すれば達成できると思う。それには、広報がとても大切ではないか。大学の入試部でも重視しており、ここ3年間であらゆる学校へ訪問した。野崎高校でも広報において教員が動く体制ができたのはとても良いこと。

あとは生徒の主体的な行動が増えればよいと思う。自己達成感が少ない生徒がいる中でそこを伸ばしていけばもっと学校として成長する。

委員：40校の中学校を回るのは大変。広報はコツコツ行うことが大事。ブログは生徒も書きこむのか。

首席：生徒は書かない。

委員：書き込みは匿名性もあり中傷も書くことがある。

委員：広報をしていると今はSNSの時代であると感じる。オープンキャンパスで参加者にSNSへ書き込みをしてもらいそれが拡散すること自体が広報となる。その辺でうまく活用できないか。

委員：里山ボランティア活動は個人のSNSで書き込みを行っている。

委員：卒業した3人の子どもが野崎高校でよかったと思っている。卒業後にいろいろな人と関わる中でより一層そう感じる。外部の評価は卒業生を見てされることもある。教員と生徒の関係では、どれだけ関わるかで変わらと思うので、担任だけでなく複数の教員と関係性を築いていく必要があるのではないか。一人とどこまで関わっていくのかが大切であると思う。良い点を褒めて、力を伸ばしてもらいたい。生徒自身、短所はすぐ出るが長所はなかなか出てこない。教員も口に出して褒めてほしい。

委員：自転車の問題で、兵庫県では保険の加入が義務化されたが大阪はどうなのか。自転車は学校ではどのような制度なのか。

教諭：本人から届け出を出してもらう制度である。

委員：自転車置き場についてはどうか。

教諭：学年毎の区切りがあるだけで、一人ひとりの自転車を把握できているわけではない。

委員：自転車通学の生徒へ何か対応はしているのか。

教諭：3学期のHRの中で10問の自転車マナーについてのクイズを出し、正答率は60%程度であった。

委員：自転車に高校名のシールは貼らないのか。

教諭：本校では行っていない。

委員：シールを貼ることで自転車の置きっぱなしや放置がしにくくなるのではないか。

委員：生徒指導面で気になった点は、問題行動を繰り返し行う生徒が増えたという点についてである。生徒の背景などに問題があるのか。

教諭：特別指導を受ける生徒には家庭の問題を抱えるケースが多い。今年度の入学生では、学校を卒業したいと思う気持ち強い生徒が多かった。その一方で、違反してしまったという現状がある。

委員：問題行動の多い1年生の中で「授業がわかりやすい。」というアンケート項目の数値が下がっている。わかる授業が大切な中で、習熟度で行うことが必要なのではないか。大学では4000人の学生がいるが語学の授業では25人ずつ習熟度別で授業を行っている。同じレベルでないとやりにくい点もある。わかりやすさ、楽しさということが一人ひとりを大切にしているという点につながると思う。

委員：大学では、テストを実施した上で習熟度に分ける。教科書は高校や中学の教科書を使っている。中学の内容を理解すれば十分であると思う。達成レベルが上がると習熟度で分けることが難しくなってくる。

委員：難易度が上がるにつれて達成感を味わうことができるという面もある。

4.会長より

いろいろな意見がある中で、まとめとしての学校側の資料も考えさせられる充実したものであった。参考になる意見もあり、次年度も見守りたい。